

光照院たより

発行：(宗) 光照院
発行日：令和5年5月18日
台東区清川1-8-11
TEL. 03-3872-8487
FAX. 03-3875-5485

絶望の闇に光を

住職 吉水岳彦

年々、墓じまいをするご家族が増加している

と耳にしていますが、ついに拙寺も昨年だけで七軒の檀信徒の墓じまいを行うことになり、その増加を肌で実感す

ることになりました。少子高齢化の影響から出生者数を死者数をはるかに上回るようになり、一年間で六十万人以上も日本人の人口が減ったといえます。代々家族

で守ってきたお墓を今後も大切にしてゆきたいけれども、自分達がこの世を去ると守る者がいなくなってしまう現実の前に、先立った親や兄弟達への申し訳なき



光照院 海譽願光智貞比丘尼の墓

光照院における慈善活動の根幹となる念佛信仰を第18世現祐上人に遺していただきました。

を感じながらの苦渋の決断が墓じまいなのでしよう。それゆえに、先祖のお骨を拙寺の観音供養塔に合葬して墓じまいはしたけれども、以前と変わらずお寺参りにお越しになる方もいらつしやいます。「大恩ある亡き大切な人のことをいいかげんに扱いたくない」との思いの一つの表れが、墓じまいなのかもしれない。そんな墓じまいをする人達の気持ちに深く考えるようになったのは、私自身先々代住職であった祖父の実家の菩提寺にある一つのお墓をしまふことにしたことがきっかけでした。

祖父は山梨の農家の四男として生まれ、三歳で拙寺の住職の養子になりました。生まれてすぐに母を喪い、幼いうちから実家を離れてお寺で育てられることにな

ったのです。当時の光照院には、行儀見習いで住み込んでいた女性達もいたため独りぼっちになることはなかったでしょうけれども、長じて実の親や兄弟と共に暮らしていけないことを知った時には淋しさを感じたことでしょう。

そんな祖父の入寺は、実家の初代当主が浄土宗の尼僧であったご縁によりです。誠にめづらしいことですが、実家の先祖代々の位牌の裏の中央には「海譽願光智貞比丘尼 先祖」とあり、両脇に二代当主とその妻の名前が刻まれていて、本家の初祖としてこの尼僧が祀られています。智貞比丘尼については、下総（現在の千葉県北部から茨城県南部にかかる地域）に生まれて山梨の浄土宗寺院住職の徒弟となり、以後、嘉永七年（安政元年・一八

五四）にこの世を去るまで山梨の寺院で活動していたことの他は一切不明です。ただ江戸時代には、僧尼が結婚することも子どもを産み育てることも許されていませんでした。ですから、血縁ではなく、洪水が頻発する笛吹川流域の貧しい地で両親を喪った私の先祖達を養育した方であったと推察されます。自分の血族を護り育て、一族にお念佛の信仰を伝えた尼僧のおかげで、東京の寺院住職になったご恩を祖父は感じていました。そのため、この尼僧のお墓参りを欠かさぬよう、こども達に厳命していたのです。

残念ながら、智貞比丘尼のことは他の親族には伝承されておらず、ついに私達以外、その墓に手を合わす者がいなくなってしまうました。そこで、祖父より厳命を受

けていた先代住職である師父は、智貞比丘尼の墓地を拙寺に移して守ることにしたのでした。智貞比丘尼がどのような思いで、私の先祖達を養育したかはわかりませんが、しっかりと継承されたお念佛の信仰は、生まれてすぐに母を亡くした祖父にお念佛を伝える僧侶となるご縁を結ぶことになりました。けれども、そんな祖父の人生は波乱に満ちたものでした。

祖父は小僧となってまもなく関東大震災に遭い、お寺を焼け出されます。本尊様などを大八車に乗せて、親代わりである当時の住職と浅草寺の境内に避難したときには、数え切れぬほどの遺体に手を合わせながら、子ども心に無常を強く感じたことでしょう。また、子ども好きだった祖父は文部省に入

省するも、すぐに戦争に駆り出されることになりました。人のいのちを慈しむ僧侶の身でありながら戦地へ行かねばならなかったことには悩みも多かったと思います。大尉になって配属先の部隊が変わった時、それまで長く苦楽を共にした部下達だけがサイパン島に送られて玉砕したことなど、どれほど悲しく無念であったでしょう。戦後、敗戦処理中の爆発事故に巻き込まれて、自身が生死の境をさまよったこともありました。さらに、焼け野原になった拙寺に戻って来た時には、お寺の復興も為さねばなりませんでしたが、同時に同じ山谷地区で親を亡くし困窮する子ども達や身体を売らねばならぬ少女達にも向き合わせるを得ず、苦悩したことででしょう。

このような激動の時代を生きた祖父にとつて、いかなる時も支えになったのは智貞比丘尼がご縁を結んでくださったお念佛に他なりません。自分や自分の大切な者達のいのちがいつ喪われるかわからぬなかを生き抜く上で、どんな形で最期を迎えようとも大切な人と必ず極楽で再会でき、決して離ればなれになることがないというお念佛の信仰こそ、ゆらぐことなく人生の土台になっていたに違いありません。そんな大切な信仰を継承してくれた智貞比丘尼に深き恩を感じていた祖父は、子孫の私達にもその尼僧の供養を願ったのです。

墓じまいの日、墓前でお念佛を申しながら、私がこの信仰を持つことになったのも、遡れば智貞比丘尼のおかげでも

あると気がつきました。お念佛のご縁に会うことは、本当に稀なことです。さまざまな憂い、悲しみ、苦しみ、痛みに大きくゆらされながらも、如来様と離れず生き、死して極楽に生まれてからも縁ある人々を救い導くために力強くそのいのちを生き続けることができるお念佛は、いまや私にとって生きる力の源です。同様に、智貞比丘尼が先祖達に伝えたお念佛は、祖父や師父を通じて大勢の人々に伝わりました。

祖父は家族を亡くした子ども達のために焼け野原に地藏堂を設けて皆で念佛を申したり、売春の末の墮胎でつらい女性と水子の供養にお念佛を称えたりしました。子ども達は、亡き父母に極楽から自分達を見守ってもらえるようにお念佛の功德を積

み、「南無阿弥陀佛」と称えながら父母に想いを聴いてもらうことが生きた支えとなつたでしょう。生きるために仕方なかったとはいえず、自分の心と身体を傷つけた末にできた小さないのちを暗闇より如来様の懐にお預けすることができた時、女性達はいかほど涙したことでしょう。師父が山谷のドヤに暮らす人の最期に手を合わせて、身寄りなく亡くなりゆく人を送ることで、同様の環境に身を置く周囲の人達はどうぞど安心したかわかりません。

いうまでもなく、お念佛の信仰は宗派や教団を大きくするためのものでなければ、まして誰かに誉めてもらうなどの自己満足のために説くものではありません。前述の子どもや女性達が現実には救われたよ

うに、お念佛の信仰は、どこまでも理不尽な世で苦しむ人が絶望の暗闇のうちに見出す希望の光となり、どう生きていいかわからぬ人を導く如来の御手にもなるのです。それゆえに、この信仰を一人に伝えることは、その先につながる無数の人にその光を届け、生きる力を得てもらうことになるのです。



戦後の困窮する人々を慰問する人形劇団「こぼと座」
現祐上人と近隣の中高生達で練習し、各地をめぐる

施餓鬼会について

拙寺では、六月十一日（日）に檀信徒の皆様や近隣寺院住職をお招きして、施餓鬼法要を厳修する予定です。

新型コロナウイルス感染症はインフルエンザウイルスと同じ五類相当の病気となりましたが、手指消毒、マスクの着用などの感染症対策は引き続き徹底した上で実施いたします。

なお、お塔婆のご回向も行いますので、大事をとってご欠席なさる場合にも、お寺にてご先祖様やご縁の方のご供養を行いますので、ご安心くださいませ。

まずは、皆様が心身ともにお健やかであることと、早く安心して暮らせるようになることをお祈り申し上げます。

住職 拝

《日程》

六月十一日(日)	
十三時	法話
十四時	法要
十五時	終了

※法要の出欠と塔婆の申込、ご参詣の人数を同封のハガキにて必ずお知らせください。

※当日の昼食のご用意はございません。



いのり大佛建立勸進

十二年前、石巻にて震災被災者の法要のお手伝いをひとさじの会の僧侶仲間とさせていだいた折、朝から夕方まで供養に訪れる人が絶えず、赤ちゃんやお子さんを亡くしたご夫婦が

泣きながら手を合わせていた様子が今も忘れられません。

昨年十一月、ご遺族の一人が次のようなお話をしてくださいました。

「早く死んであの子のもとに向かいたい……。何度死のうと思っただろうか。でも、今は違うの。あの子がこの人が母親で良かったって思えるような生き方をしなくてはいけないって思えるようになったの。それは、必ず阿弥陀様の世界の美しい蓮の花の上で、必ずあの子と再会させてくれるって約束があるから、そう思えようになつたの。でもね。苦しさがそれでなくなつたわけではなくて、言葉にならない、いろんな感情が心の中に渦巻いてつらいことがある。そんなどうしようもなく苦しい思いを受けとめてくれる存在が欲しい。どんな気持ちも受けとめてくれる、大きな佛様がいてくださり、直接触れることができたら……。そんな大きな佛様がで

きるなら、それはわたしを支えてくれる、生きる希望になると思うの」と大切な人との再会を「待つこと」は、決して消極的な行為ではありません。「待つこと」は、姿を見ることができない大切な相手を想い続け、「まつらう」こと、「まつる」ことに通じます。すなわち、想う相手のそばに心を寄せ、近くにあり続けようとする積極的な行為です。でも、長い年月、いつ会えるとも定まっていけない亡き大切な人を想い続けることは、心を揺らして生きるしかない私達にとって、とても大変なことでもあります。

それでも、愛情を根として亡き大切な者を「待つ」想いが失われることはないでしょう。しかし、歳月を重ねていく間には、死にたいと思わずとも、生きていくのがつらくなる時や、生きていく力がなくなることもあると思いますが。そんな時に、その心を励まし、生あるかぎり亡き大切な人を想い続け、極楽で再会を果たすまで、その人に喜んでもらえるように精一杯生きて祈り続けてゆこうとする心をやさしく受けとめ、支えてくれる存在があれば、どれほど心強いでしょう。また、喪失の苦しさは、震災遺族だけでなく、天災や貧困、戦争、差別、暴力、病気、事故、事件などで大切な人を喪つたすべての人に共通のものでありましょう。それゆえに、この世で別れた大切な方々との再会を約束してくださる阿弥陀如来様の存在は、あ

「待つこと」は、決して消極的な行為ではありません。「待つこと」は、姿を見ることができない大切な相手を想い続け、「まつらう」こと、「まつる」ことに通じます。すなわち、想う相手のそばに心を寄せ、近くにあり続けようとする積極的な行為です。でも、長い年月、いつ会えるとも定まっていけない亡き大切な人を想い続けることは、心を揺らして生きるしかない私達にとって、とても大変なことでもあります。

それでも、愛情を根として亡き大切な者を「待つ」想いが失われることはないでしょう。しかし、歳月を重ねていく間には、死にたいと思わずとも、生きていくのがつらくなる時や、生きていく力がなくなることもあると思いますが。そんな時に、その心を励まし、生あるかぎり亡き大切な人を想い続け、極楽で再会を果たすまで、その人に喜んでもらえるように精一杯生きて祈り続けてゆこうとする心をやさしく受けとめ、支えてくれる存在があれば、どれほど心強いでしょう。また、喪失の苦しさは、震災遺族だけでなく、天災や貧困、戦争、差別、暴力、病気、事故、事件などで大切な人を喪つたすべての人に共通のものでありましょう。それゆえに、この世で別れた大切な方々との再会を約束してくださる阿弥陀如来様の存在は、あ

それでも、愛情を根として亡き大切な者を「待つ」想いが失われることはないでしょう。しかし、歳月を重ねていく間には、死にたいと思わずとも、生きていくのがつらくなる時や、生きていく力がなくなることもあると思いますが。そんな時に、その心を励まし、生あるかぎり亡き大切な人を想い続け、極楽で再会を果たすまで、その人に喜んでもらえるように精一杯生きて祈り続けてゆこうとする心をやさしく受けとめ、支えてくれる存在があれば、どれほど心強いでしょう。また、喪失の苦しさは、震災遺族だけでなく、天災や貧困、戦争、差別、暴力、病気、事故、事件などで大切な人を喪つたすべての人に共通のものでありましょう。それゆえに、この世で別れた大切な方々との再会を約束してくださる阿弥陀如来様の存在は、あ

あらゆる死別の苦しみを抱える人にとっても大切なものといえます。すべてのいのちがあらゆる苦しみから救われて、やすらかに暮らして、亡き大切な方々もやすらかで幸せであり、最終には必ず極楽に生まれ、再会を果たせるように願いを込めて、東日本大震災十三回忌を契機に、石巻市震災遺構「門脇小学校」そばの「祈りの杜」に「石巻いのり大佛」を建立するプロジェクトを始動しました。石巻西光寺住職を代表として、遺族会「蓮の会」の皆様、全国で大佛勧進を行う僧侶の皆様と共に進めて参ります。

海に向かって鎮座し、直接に触れられる大いなる阿弥陀如来様のご尊容は、必ずや亡き大切な人を想い続け、待ち続けるすべての人の生きる力を励ます存在になるに違いありません。そんな「石巻いのり大佛」を建立すべく、このプロジェクトにかかわる私は、三年かかろうと、五年かかろうと、十年かかろうと、百年かかろうとも尽力します。千年先までも、悲しみという愛を胸に懐くすべての人を支えてくださる石巻いのり大佛建立を必ずや果たしたく存じます。

貧困・子供支縁御礼
日頃より、光照院や住職の行う生活困窮者や子どもへの支援活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。昨年、多くの檀信徒様から頂戴したお寺へのお供物やご支援の品を困っているご家庭やウクライナ難民や困窮するベトナム人等の外国籍の方々に活用させていただいています。

ちなみに、昨年度にひととさじの会や光照院宛てに届けられたお米は3トンにもなります。誠に有難く存じます。この場をお借りして感謝を申し上げます。

今後、光照院では支縁活動を続けてまいります。お近くでお困りの方がいらつしやる際には遠慮なくご相談くださいませ。

合掌



石巻いのり大佛完成予想図 「祈りの杜」という小さな公園スペースにいのり大佛は建立されます。左後ろには、津波の恐ろしさと教訓を伝える震災遺構「門脇小学校」がみえます。

光照院行事予定

二〇二三年

●六月十一日(日)

施餓鬼会法要

●七月十三日(土)

お盆(新暦)

●八月十三日(土)

お盆(旧暦)

●九月二十日(土)

秋のお彼岸

●十一月十二日(日)

十夜放生会法要

※お盆にご自宅をおたずねして念佛回向を行う棚経は、都内であれば七月九日～十六日、東京以外の地域であれば八月八日～十六日に行う予定です。新盆を向けるお宅は、少しお早めにお寺にご都合を教えてください。よろしくお願ひ申し上げます。

※今年の秋か冬には、光照院の授戒会を開催する予定です。

お念佛会

ねんぶつかい

光照院では、毎月お念佛とお写経を行う会を行っております。開催日は、基本的には毎月第三土曜日の十五時から二時間を予定しています。光照院の檀信徒に限らず、大切な人を亡くしたさまざまな方がご参加

くださっています。現在はオンライン参加と現地参加(少人数)の二つの方法で続けております。夕方の十六時半からYouTubeの「為先会のお念佛」というチャンネルにて、ご参加いただいています。もしよろしければご参加をお待ちしております。

〈お念佛会の流れ〉

十四時半	茶話会
十五時	写経
十六時半	法話
十七時	念佛回向
十八時頃	終了

※お写経は、現地参加の人のみを対象にしています。

盂蘭盆会のご案内

光照院本堂で行うお盆の御回向の日時を定めました。ご希望の方は、**六月末日まで**にお寺(〇三―三八七二―八四八七)へご連絡下さいませ。お盆のお塔婆もあわせてお申し付け下さい。

〈盂蘭盆会日時〉

- 七月十三日(木) 十一時・十三時半
- 七月十五日(土) 十一時・十三時半
- 七月十六日(日) 十一時

※ご出席の場合は、ご回向する御位牌を必ずご持参下さい。

※他の檀信徒との合同の盆供養です。手指消毒とマスク着用にご協力をお願い申し上げます。



いのり大佛の心臓部に納入される水晶

水晶の中には、阿弥陀様の梵字「キリーク」と、極楽での再会を約束する經典の言葉が彫られています。

外国籍の方の納骨堂

日本に暮らす外国籍の方の人口は、いまや三百万人にのぼるといわれています。日本人の人口が減少し、介護が必要な人も増加し、社会を維持するための仕事を担う人間が足りなくなってきたて久しく、いまや多くの外国籍の労働者の力を借りなくては生活

が成り立たなくなってきました。

大手のコンビニエンスストアだけでなく、農業や漁業、建築など、多岐にわたるお仕事を在日外国籍の方々がしてくださるおかげで、日本に暮らす人の生活が支えられているのです。

しかし、日本は労働力の調整のために多くの外国籍の労働者を呼ぶ

けれども、彼らが日本で暮らすのに必要な支援や制度が整えられていないばかりか、いじめや差別、人権の問題も多くあつて、諸外国からは「奴隷労働」をさせていると指摘されています。本当に恥ずかしいことです。

使い捨ての労働力としてではなく、共に日本で暮らす仲間として、一

人の人間として受け入れられるためには、出産や育児、教育、介護、葬送等、彼らが日本で生きて死ぬまでに必要なさまざまなサービスや制度が求められています。

そのようななか、光照院では、昨年秋に日本に暮らす外国籍の方々の納骨堂を設けました。これは政治的な意図ではなく、佛教を縁として多くの外国籍の方々が集う拙寺では、以前から外国籍の方の葬送や納骨の問題を耳にするようになっていたからです。

生まれる日は、おおよその予想が尽きますが、亡くなる日は誰にも予想できません。そして、亡くなると、遺体の状態が良いうちに葬送を行い、火葬や納骨などを決めてゆかねばなりません。これは日本人でも苦勞することです。これが外国籍の方が葬送の会

社や納骨先などを見つけるとなると、もつと大変な思いをします。

ひとさじの会のボランティアの一人で、ご本人も日本人に帰化した経験を持つ内海ケイさんは、この問題を自らの問題と考えて取り組み、「ジーバ (Jiba)」という外国籍の方たちの葬送の会社をつくり、光照院に外国籍の方の納骨堂をデザインして建立してくださいました。

彼女は「アジア諸国では風水の考え方が一般的で、遺骨を自宅に安置することはなく、基本的には宗教施設に預けるものです。しかし、日本で外国籍の方の遺骨を受け入れてくれる宗教施設がどこにあるかを探すことだけでも、文化や言葉の壁があつて困難です。せめて大切な家族の遺骨をいったんお寺にあずけることがで



光照院墓地に設置した外国籍の方の納骨堂
各扉ごとに8人分の遺骨が入り、32名まで受け入れられるようになっています。

きれば、故郷のお墓に埋葬する計画を立てたり、日本でお墓を探すこともできます。だから、外国籍の人の納骨堂は大切なんです」と、外国籍の方の納骨堂の意義を教えてくださいました。

異なるルーツや文化を持つ者同士が、同じ日本という国で仲良く暮らしてゆけるようになるためにも、共に生き、共に死にゆくことができ、共に死にゆくことができる社会の仕組みづくりが大切です。そして、国籍や人種の異なりを越えて共に生きていく上で必要な物ごとを、一緒に考えるための対話を重ねていくことが欠かせません。観音像や納骨堂の設置を契機として、光照院も善き隣人たちの楽しい対話の場になりたいと考えています。檀信徒の皆様にも、共に同じ国に暮らす良き隣人たちに興味を持



こども極楽堂のお地藏様と牡丹の花 光照院檀信徒で、こども極楽堂のボランティア活動に参加している女性が育てた牡丹です。入口で出迎えてくださる美しい姿に心が穏やかになります。

ついでにただきたい願っています。 合掌

編集後記

子どもの頃、両親に買ってもらった歴史漫画『聖武天皇』で、東大寺

の大佛を建立するために奔走する勸進僧という存在をはじめて知りました。まさか自分自身が多く僧侶たちと一緒に大佛勸進にかかわることになるとは考えもみませんでした。大

いなるみほとけのお姿は、尽きせぬ苦しみにあえぐ人々の声に応え、この世に現じた慈愛の尊容であり、すべての悲しみを受けとめようとなさる佛心のあらわれなのでしょう。(住)

お佛具料ご寄進

爲 徳風院調嘗清鍊心華大姉靈位 三回忌追善菩提 一金貳拾萬圓
 施主 林峰子殿

爲 永照智君信女靈位追善菩提 光照院本堂耐震工事等寄進
 施主 匿名信徒